

# 防除適期は逃がさずに!

## 果樹編

★農薬は使用時期、使用回数、散布量、濃度などの安全使用  
★他の農産物に農薬が飛散しないよう注意しましょう。

病害虫の種類	被害の特徴	防除対策	病害虫の種類	被害の特徴	防除対策	病害虫の種類	被害の特徴	防除対策
リンゴ・黒星病	●葉の表裏に黒色、すす状の斑点がつき、多発すると早期落葉する。 ●開花直前～落花後20日頃に降雨が多いと多発する。	●開花直前と落花後にテーク水和剤(600倍)を散布する。 ●5月中下旬にオーソサイド水和剤80(800倍)を散布する。	クリタマバチ	●結果枝に虫こめ、実がなら ●成虫は6月下旬に新梢にぶを作るた なくなる。 ●被害は6月下旬に新梢に作る。	●成虫の産卵時に合わせてア グロスリン水和剤(1,000倍) を散布する。 ●被害の多い枝を切り落とす。	カイガラムシ類	●樹木類を衰弱させ葉を黒いす で汚す。 ●すす症状はカイガラムシの分 泌物にカビが生えたものであ る。	●6～7月に幼虫発生を確認し、 マジン油乳剤(アックオイル) 100倍を散布する。 ※樹木類としての登録内容
リンゴ・褐斑病	●新梢の付け根付近から発生す る。病勢が進むと葉は黄色にな り早期落葉し、果実品質を低下 させる。 ●被害落葉で越年し、降雨により 伝染する。	●7月上旬にトップシンM水和剤 (1,500倍)を散布する。	モモ・縮葉病	●展葉すると、 れ状の病斑を黒く腐って落 ●5月の新葉展 する。	●翌年の発生を少なくするため、 病葉を摘み取り、園外に埋め る。 ●冬季に石灰硫黄合剤(7倍)を たっぷりと散布する。	ケムシ類	●初夏～秋にかけて発生する。	●ケムシ類の発生初期～ テルスター水和剤(1,000倍、 6回以内)を散布する。 ※樹木類としての登録内容
リンゴ・斑点落葉病	●新梢先端付近から発生し、新梢 先端の葉に赤褐色で円形の斑 点を生じる。多発すると早期落 葉する。	●6月下旬にバスポート顆粒水 和剤(1,000倍)、7月中旬に オーソサイド水和剤80(800 倍)、8月上旬にバスポート 顆粒水和剤(1,000倍)を散 布する。	ウメ・コスカシバ	●幹の表皮付近を衰弱させ に食いし樹 る。	●ガットキラー乳剤100倍を樹 幹に散布する。 ●株元の除草を行い、被害を見 つけやすくする。 ●食入された場合、食入孔に針 金等を差し込んで殺す。	カキ・円星落葉病	●9月以降、葉 形の小斑が落葉する。落 ため、果実が も不足する。	●被害落葉が翌年の発生源とな るので落ち葉を集めて焼却す る。 ●6～7月に感染するので、この 時期にトップシンM水和剤 (1,500倍)を散布する。 秋に防除しても効果はない。
リンゴ・すす斑病	●いずれも果実表皮に汚斑を生 じる。 ●りんご樹や野生植物に寄生し、降 雨で伝染する。	●9月上旬にオーソサイド水和 剤80(800倍)を散布する。	カキ・円星落葉病	●9月以降、葉 形の小斑が落葉する。落 ため、果実が も不足する。	●被害落葉が翌年の発生源とな るので落ち葉を集めて焼却す る。 ●6～7月に感染するので、この 時期にトップシンM水和剤 (1,500倍)を散布する。 秋に防除しても効果はない。	りんご	トップシンM水和剤	前日まで 6回以内
リンゴ・銀葉病	●被害樹の葉は鈍く銀色に光る。後 に樹が衰弱し、枯死する。 ●せんじ症や折損部の傷口から 感染する。	●夏にせん定を行わない。 ●傷口にパッチレート(年間3回 以内)を塗布する。	カキノヘタムシガ	●7月以降に発 生する。カ 赤く色付き、 し落果する。	●幼虫が移動する開花後頃に、 オルトラン水和剤(1,500倍) を散布する。 ●樹の皮の下で幼虫が越冬する ので、9月にわら等を幹に巻き、 冬に幼虫ごとわらを燃やす。 ●冬に幹表面の荒皮を削る。	くり	アグロスリン水和剤	7日前まで 5回以内
リンゴキンモンホソガ	●幼虫は葉中に入り、葉肉を食害 する。年間に5世代が発生す る。	●6月上旬にモスピラン顆粒水 溶剤(4,000倍)を散布する。 ●春までに株元のひごえを刈 る。	イチジク・疫 病	●果実表面が 暗紫色の水浸 や陥没する。 白色粉状の れる。 ●葉には褐色 整形病斑が 拡大して大型 落葉する。	●8～9月、降雨の前に下葉を中 心としてダコニール1000 (2,000倍)を散布する。 ●地面に落ちた被害葉、果実で 越冬するので、被害葉、果実を 集めて焼却する。	うめ	ガットキラー乳剤	休眠期 (落葉後～萌芽前) 2回以内
シナガナ・ハダニ・シナガバ	●梅雨明け後、7月～9月中旬の 高温乾燥が続く頃に発生しや すい。	●発生初期にダニゲッターフロ アブル(2,000倍)を散布す る。 ●周辺の雑草を刈り取る。	胴枯病	●ナシ、クリ等に 幹、枝の表皮 斑が生じ、樹 る。	●発生する。 に褐色の病 を衰弱させ る。	かき	トップシンM水和剤	前日まで 6回以内
					●ナシ、クリでは、病斑が小さい 場合は、刃物で削り取り、傷口 にトップシンMペースト(年間 3回以内)を塗布する。	いちじく	オルトラン水和剤	45日前まで 2回以内
							ダコニール1000	前日まで 2回以内

## 庭木編

基準を守りましょう。

## 庭木編

病害虫の種類	被害の特徴	防除対策
カイガラムシ類	●樹木類を衰弱させ葉を黒いす で汚す。 ●すす症状はカイガラムシの分 泌物にカビが生えたものであ る。	●6～7月に幼虫発生を確認し、 マジン油乳剤(アックオイル) 100倍を散布する。 ※樹木類としての登録内容
ケムシ類	●初夏～秋にかけて発生する。	●ケムシ類の発生初期～ テルスター水和剤(1,000倍、 6回以内)を散布する。 ※樹木類としての登録内容

## 果樹農薬の安全使用基準

	農薬名	使用時期 (収穫前)	総使用回数
	テーク水和剤	30日前まで	3回以内
	オーソサイド水和剤80	前日まで	6回以内
りんご	トップシンM水和剤	前日まで	6回以内
	バスポート顆粒水和剤	45日前まで	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	前日まで	3回以内
	ダニゲッターフロアブル	前日まで	1回
くり	アグロスリン水和剤	7日前まで	5回以内
うめ	ガットキラー乳剤	休眠期 (落葉後～萌芽前)	2回以内
かき	トップシンM水和剤	前日まで	6回以内
	オルトラン水和剤	45日前まで	2回以内
いちじく	ダコニール1000	前日まで	2回以内

※上記の農薬使用基準は令和7年1月現在のものです。